

東建パブリニュース

平成27年10月5日

経営管理本部 広報IR室

《このニュースは、当社に関連する記事が掲載された新聞・雑誌等の情報を逐次、速報するものです。》

掲載

平成27年10月1日 日本経済新聞 P. 37

●当社に関する記事の掲載がありましたので、以下の通りご報告いたします。



建設が進む東建コーポレーションのホテル多度温泉レジデンス新館（三重県桑名市、左側の建物）

東建コーポ 25日開業

三重に会員制ホテル

賃貸住宅の建設・仲介大手の東建コーポレーションは10月25日、同社としては初の会員制リゾートホテルを三重県桑名市に開業する。左右田社長兼会長は日本経済新聞の取材に対し、「ゴルフ場との一体経営により、利益を出すことができる」と説明した。会員制ホテルの建設で採算性の高いゴルフ場の集客力をさらに引き上げ、利益を押し上げる効果を狙う。

桑名のゴルフ場併設 高採算

「ホテル多度温泉レジデンス新館」は、男子プロトーナメントの開催コースとして知られる「東建多度カントリークラブ(CC)・名古屋」の敷地内に建設。地上8階建てで21室を備え、会員は年間15泊か30泊するチケットを得ることができ、第1次販売として13室分を売り出す。主要プランと位置付ける30泊コースでは、36・75平方メートルの部屋で会員権価格を440万円(税抜き)とし、最も大きな部屋(114・2平方メートル)は880万円に設定。左右田社長は「同業他社の会員制ホテルの3分の1以下の水準を意識して決めた」と説明した。

多度CCはプロトーナメントの開催に耐える距離や戦略性を備え、中部でも高い人気を誇る。稼働率は8割を超え、採算分岐点を既に十分クリアしている(左右田社長)状態だ。ゴルフ場は入場者数にかかわらずコースの整備費用はほぼ一定で、「損益分岐点を超えた売り上げはすべて利益となる。最も採算性が高い事業のひとつ」という。新ホテルの会員権価格を抑えめにしても、ゴルフの利用者が増えればプレー代金がほぼそのまま利益となる計算だ。

また、多度CCはすでにレストランを備え、宿泊施設もある。レジデンス新館に設けるレストランルームなどでも、既存の人員を繋ぎに際して機動的に配置し、人件費の過剰な増加を抑えられる。左右田社長は「ゴルフ場があることで、全体で利益を出すことができ、可能性が高まる」と説明する。

東建コーポは主方の賃貸住宅の建設受託に加え、高級賃貸マンション分譲事業を拡大する狙いがあり、ゴルフ場も会員制ホテルと一体経営で採算向上を目指す。(佐藤俊簡)